

「保健医療におけるアフリカ・日本 コモン・ビジョン：健康安全保障と持続可能な成長を共創する」要旨

「コモン・ビジョン」ワーキング・グループ
(事務局：日本国際交流センター(JCIE))

アフリカは感染症、非感染性疾患(NCDs)、気候変動、脆弱な保健体制などの課題を抱えつつも、自律や健康への主権を実現する動きを高めており、一方、日本は少子高齢化という人口動態の変化に対応しつつ、技術と研究力を活かした国際連携を求めている。このような中、包摂的で持続可能な保健体制を共に構築する新たなアフリカ・日本パートナーシップへの機運が高まっている。「保健医療におけるアフリカ・日本 コモン・ビジョン」は、強靱で公平かつ持続可能な保健システムを通じて、2030 年以降を見据えた、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)と持続可能な開発目標(SDGs)の達成を推進するための戦略的パートナーシップを提示するものである。アフリカ開発会議(TICAD)での長年にわたるアフリカと日本の協力関係を基盤に、相互学習・技術連携を通じて両地域の強みを融合し、保健医療がそれぞれの地域における人間の安全保障と繁栄の礎となるだけでなく、グローバル公共財として共有される未来を共に築き上げることを目指す。

基本原則

相互尊重と公平なパートナーシップ、長期的なコミットメントと相互信頼、共創と責任の共有、相互学習と成長、包摂的で責任あるガバナンス

「コモン・ビジョン」達成のためのアクション

アフリカと日本は、相互の繁栄を目指し、次のような未来志向の施策に「共創」を通じて取り組むべきである。さらに、「アフリカ健康構想」を基盤とした対話プラットフォームを制度化し、TICAD において政策枠組みを策定し、TICAD での定期的なモニタリングにより、本ビジョンの実現に向けた協力を進めることを提案する。

(1) 持続可能な保健財政と資源動員の強化

- G20 の経験を活かし、アフリカ連合(AU)や地域経済共同体(RECs)と連携した財務・保健政策対話の定期開催
- UHC ナレッジハブを通じた相互学習と技術支援
- 日本とアフリカの機関が連携し、国内資金動員に加え、債務・税制改革、成果連動型資金、債務を保健投資に転換するスワップ等の革新的資金調達法の推進、ブレンデッドファイナンスの拡大
- 「グローバルヘルスのためのインパクト投資イニシアティブ(Triple I)」を活用した民間投資エコシステム構築
- 民間によるサービス提供を拡充する一方で、保健医療への公平なアクセスや、医療支出による貧困を防ぐガバナンスや規制を強化

(2) 保健データシステム強化や、検査・診断技術に関する能力強化

- 保健情報管理システムなどのデジタルツールの活用や迅速・高品質検査、薬剤耐性対応に関わる人材育成を通じて、検査・診断体制を強化
- アフリカ疾病予防管理センター(アフリカ CDC)と日本の健康危機管理研究機構(JIHS)が、人工衛星、ゲノム解析、人工知能(AI)技術を活用したリアルタイムモニタリングシステムの開発において協働する

可能性を検討

- 世界保健機関の STEPS アプローチを活用した NCDs のサーベイランス拡大
- AU、南アフリカ、日本により、データ主権、倫理的な AI 活用、データの相互運用性等を含む、保健データガバナンスの国際的議論をリード

(3) 個別疾病対策の縦割りを越えた、デジタル化された一次医療と予防医療の推進

- コミュニティヘルスワーカー(CHW)の拡大・専門職化支援、及びデジタル化により遠隔地等におけるヘルスケアサービスへのアクセス向上
- ライフコースを通じた継続的ケアの促進により、母子保健から高齢者ケアに至るまでの包括的な CHW プログラムの拡大
- アフリカ-日本 NCDs 対策政策フォーラムを設立し、経験を共有
- ヒト免疫不全ウイルス(HIV)対策プログラムを応用した NCDs 統合診療パイロット・プロジェクト実施
- 電子カルテ、遠隔診療、モバイル保健ツールの導入等により PHC のデジタル化を推進し、データ活用と継続的ケアを実現
- 国際協力機構(JICA)や国際機関等と連携し、アフリカ市民社会組織支援基金を設け、地域ニーズに応じた政策形成・施行に対するアカウンタビリティ向上に役立てる

(4) 研究と製品開発における共創の加速

- 地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS)や日本医療研究開発機構(AMED)のプログラム等の既存の枠組みを拡大しつつ、研究開発の初期段階からアフリカの研究者が参画し、製品化、社会実装まで一貫して共同で取り組めるよう支援
- 文部科学省のアフリカ交流プログラム等を通じて学術交流を制度化するとともに、小規模共同プロジェクトやスタートアップ支援を可能にする制度及び日アフリカ若手保健専門職ネットワークを創設
- 現地のニーズに合致し、ジェンダーや若者への対応も考慮した製品の研究開発から実装化までのバリューチェーンの各段階に沿った支援を強化
- 公的資金とベンチャーキャピタルの共同投資によるバイオテックプラットフォームの創設
- 規制のサンドボックス制度等も活用し、アフリカのコミュニティや日本の高齢化が進む地方で活用が見込める Point of Care (POC)診断ツールを共同開発

(5) パンデミックの予防・備え・対応(PPPR)と保健システムの強靱性を高めるための地域システムの強化

- 迅速対応チーム、緊急オペレーションセンター、アウトブレイク制御のための物流システム等への投資により、アフリカの緊急対応能力を支援
- JIHS の J-GRID 拠点を活用し、ARISE 的な臨床試験ネットワークをアフリカに拡大
- アフリカ CDC 等と連携し、医薬品(開発)製造受託機関とアフリカの製造拠点を繋ぎ、技術移転を推進
- 医薬品医療機器総合機構(PMDA)とアフリカ医薬品庁(AMA)の協力枠組みを構築し、技術支援も行いつつ、規制調和を推進
- アフリカ共同調達メカニズム(APPM)の支援等により、需要の見込みを立てやすくし、生産のインセンティブを高め、地域調達を安定化

【取り組みの概要】

アフリカと日本が共有できる健康医療分野における明確で実行可能なビジョンを策定するため、日本国際交流センター(JCIE)は、2025 年 3 月に「アフリカ・日本 コモン・ビジョン・ワーキンググループ」を組織した。7月までの間に、地域及び言語圏、健康状態の多様性を踏まえ、エジプト、ケニア、コンゴ民主共和国、セネガルの4か国の政府関係者へのアンケート、日本とアフリカの政府系機関、産業界、学术界、市民社会の専門家へのヒアリングや対話を実施し、原案を取りまとめ、その上で、日本・アフリカのアドバイザー、パートナーからコメントを聴取して、ビジョンを最終化した。このビジョンに盛り込まれた提言は、「アフリカと共に革新的な解決策を共創する」というテーマのもとで開催される第 9 回東京アフリカ開発会議(TICAD9)の機会に発表される。これは、JCIE の「グローバルヘルスと人間安全保障」運営委員会有志が発表した「第 3 期『健康・医療戦略』策定に向けた提言―求められるグローバルな視点―」を踏まえ、さらに発展させたものである。

ワーキング・グループ

【座長】

国井 修 (公社)グローバルヘルス技術振興基金(GHIT Fund)CEO 兼専務理事

【メンバー】(五十音順)

稲場 雅紀 (特活)アフリカ日本協議会 共同代表

井本 大介 (特活)DNDi Japan 事務局 代表

坂元 晴香 聖路加国際大学 公衆衛生大学院 客員准教授

清水 栄一 (国研)国立健康危機管理研究機構(JIHS) 国際医療協力局 連携協力部 連携推進課 上級研究員

ムチャンガ・シファ・マリ・ジョウエレ (国研)国立健康危機管理研究機構(JIHS) インターナショナルトライアル部 臨床研究センター 上級研究員

神代 和明 東北大学大学院 医学系研究科 非常勤講師、株式会社 ALLM 社長室 コンサルタント

鈴木 智子 (公財)日本国際交流センター(JCIE) チーフ・プログラム・オフィサー

友次 直輝 (国研)国立健康危機管理研究機構(JIHS) インターナショナルトライアル部 臨床研究センター 室長

西野 義崇 (公財)日本国際交流センター(JCIE) リサーチ・オフィサー

野田 信一郎 (国研)国立健康危機管理研究機構(JIHS) 国際医療協力局 人材開発部 研修課 課長

野村 周平 慶應義塾大学 グローバルリサーチインスティテュート(KGRI) 特任教授

乗竹 亮治 (特活)日本医療政策機構(HGPI) 代表理事

エマニュエル・オルワダレ・バログン アフマド・ベロ大学 生命科学部 生物医化学科 教授、東京大学大学院 医学系研究科 国際保健学専攻 生物医化学分野 客員研究員、カリフォルニア大学サンディエゴ校 スカッグス薬学部 寄生虫疾患発見・革新センター 客員研究員

オルクミ・オモボラレ・バログン 聖路加国際大学 公衆衛生大学院 学際健康科学分野 講師

【コラボレーター】

牧本 小枝 (独法)国際協力機構(JICA) 人間開発部 審議役

【アドバイザー】

サリム・S・アブドゥル・カリム	南アフリカ・エイズ研究プログラムセンター(CAPRISA)所長、第4回野口英世アフリカ賞受賞者
カライシャ・アブドゥル・カリム	南アフリカ・エイズ研究プログラムセンター(CAPRISA)副科学ディレクター、第4回野口英世アフリカ賞受賞者
ウィリアム・K・アンポフォ	アフリカワクチン製造イニシアティブ事務局長
アワ・マリー・コール・セック	アフリカ・フォーラム・ガリアン理事長
石田祥吾	EMURGO 中東・アフリカ共同 CEO
石井 健	東京大学医科学研究所 感染免疫分野 ワクチン科学分野教授
北 潔	長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科長
ジャン＝ジャック・ムエンベ＝タムfum	国立生物医学研究所(INRB)所長、第3回野口英世アフリカ賞受賞者
ピーター・ピオット	ロンドン大学衛生熱帯医学大学院グローバルヘルス教授、第2回野口英世アフリカ賞受賞者
マグダ・ロバロ	UHC2030 運営委員会共同議長、グローバルヘルス・開発研究所(IGHD)共同設立者兼所長
澤田拓子	塩野義製薬株式会社 副会長
渋谷 健	コモンズ投信株式会社会長、株式会社 and Capital CEO
新福洋子	広島大学大学院 医系科学研究科国際保健看護学 教授
武見敬三	JCIE シニア・フェロー
アミット・タッカー	アフリカ・ヘルス・ビジネス執行役会長
椿 進	AAIC Holdings 代表パートナー
ミリアム・ウェレ	AMREF 会長、第1回野口英世アフリカ賞受賞者

【パートナー】

アフリカ疾病予防管理センター(Africa CDC)
 アフリカ連合開発庁(AUDA-NEPAD)
 ENDA Santé
 国立健康危機管理研究機構(JIHS)
 PATH アフリカ地域
 国連児童基金(UNICEF)
 WACI Health